

令和3年度 文化観光部 経営計画書

職・氏名	経営方針	経営資源			
文化観光部長 頓宮 忍 	●使命 私たち文化観光部は、古くから継承されてきた歴史遺産や伝統文化を保護、保存、活用し、まちの個性を形づくる伝統文化や文化財を次世代に継承します。また、歴史、文化に触れる機会や多様な文化活動の機会を設けることにより、人と文化の交流による豊かな文化の創造を進めます。また、自然や景観、歴史遺産、伝統文化などの観光資源を活用し、情報発信事業を推進することにより、市の魅力を広く内外に発信し、交流人口の増加を図るとともに、地域の賑わいを創出します。 ●基本方針 ①文化財の調査等による保護、保存を推進し、併せて情報発信による文化財等の活用を進めます。 ②市民の文化活動を支援するとともに、博物館、美術館をはじめ、優れた芸術文化に触れる機会を提供します。 ③大型観光キャンペーンに参画することにより、観光客の誘致を促進し、市の知名度向上を図ります。 ④新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めつつ、観光需要の喚起を図る施策を推進します。	所管課	文化観光課		
		人 員	正職員	会計年度 任用職員	合計
			14人	10人	24人
		一般会計	477,353 (うち繰越明許 38,452)		
		特別会計	千円		
		計	477,353 (うち繰越明許 38,452)		
		(うち人件費)	(123,162 千円) (うち会計年度任用職員23,837 千円) (そのうち地域おこし協力隊3,000 千円)		

重点項目		内容	成果目標	9月末の進捗状況	1月末の進捗状況	3月末の達成状況
1	文化財の調査等による保護、保存及び情報発信による文化財等の活用	本市における文化財の保存活用に関する基本的な方針となる文化財保存活用地域計画策定(令和2年度～令和4年度)に向けた取組を進めます。	計画策定のための協議会や住民ワークショップを開催し、文化財保存活用地域計画の策定に向けた素案の作成を進めます。 目標：地域計画の素案作成	素案の作成に向け、本年度第1回の協議会(書面協議)を6月に開催し、関連文化財群の整理や文化財保存活用の課題に対する措置の検討など、骨子の作成を進めています。	10月に第2回の協議会を開催し、骨子の検討を行いました。その後、策定委員と個別協議を実施し、さらに1月には文化庁との協議を経て、素案の作成を進めています。	3月に第3回の協議会を開催し、素案の検討を行いました。また、協議会でいただいた意見を基に、素案の修正等を行い、計画策定に向けた取組を進めました。
		地域と連携し、地域の文化伝承のための拠点とする文化財の整備を進め、市内外に周知します。	文化財の保存・活用が図られるよう、地域と連携して文化伝承の拠点となる文化財の整備や情報発信を行います。 目標：整備した拠点 2ヶ所	伊木家の墓所や関連文化財、宇喜多家の城跡を中心とした関連史跡地など、地域住民が中心となって実施する文化財等の保存・活用事業に対して補助金交付決定を行い、活動への指導助言等の支援を行っています。	地域住民が主体となって実施する、伊木家の関連文化財及び宇喜多家の関連文化財の保存・活用事業に対し、指導助言等の支援を行っています。また、動画やパンフレットの作成、案内・説明看板の設置などを進めました。	地域住民が主体となって実施する、伊木家の関連文化財及び宇喜多家の関連文化財の保存・活用事業が完了し、文化財の整備や情報発信、認知度の向上ができました。 ◇整備した拠点：2ヶ所
		小・中学校の歴史学習と関連のある市内の文化財を学習教材として活用する取り組みを進めます。	歴史学習と関連があり、市内に現存する文化財を紹介する冊子を作成・配布し、教育委員会と連携することにより、それらの文化財を小・中学生の学びの場とします。 目標：冊子の発行 1冊 目標：冊子を活用した市民ワークショップに参加した人数 20人(1回)	小・中学校の学習と関連のある文化財を紹介したパンフレットを作成し、児童・生徒に配布するとともに、図書館や公民館、市ホームページで公開しています。	冊子で紹介した「牛窓海遊文化館」での住民ワークショップには、小・中学生4人、大人7人の参加がありました。「砥石城跡」での住民ワークショップには、小・中学生3人、大人37人の参加があり、学びの場の提供ができました。	小中学生が歴史学習で学ぶ文化財と、市内で見学できる文化財を関連付けた冊子を作成・配布し、冊子を活用した市民ワークショップを開催しました。 ◇冊子の発行：1冊 ◇ワークショップ参加人数：51人(2回)

重点項目		内容	成果目標	9月末の進捗状況	1月末の進捗状況	3月末の達成状況
2	市民の文化活動の支援及び優れた芸術文化に触れる機会の提供	音楽を軸とした多種多様な文化芸術分野のコンサート等を開催するとともに、同様の事業を実施する市内団体等を支援し、市民等が優れた文化芸術に触れる機会を創出します。 ※新型コロナウイルス感染症の影響あり	市民等が優れた文化芸術（音楽等）に触れるコンサート等を開催します。 また、同様のコンサート等を企画・計画している文化振興団体に対して支援します。 目標：優れた文化芸術（音楽）活動に参加した数 2,000人	夢二コンクール参加者募集を実施し、感染症拡大により延期したスクールコンサートの日程を再調整しています。 市民が優れた音楽等に触れる機会の創出に関する事業を実施する団体に対して補助金の交付を決定しました。	夢二コンクール予選を11月7日、本選を12月4日に無観客（関係者のみ入場）で開催し、予選15名、本選7名が出場しました。 市内団体が補助金を受けて2月27日に実施を予定していた第九コンサートは、感染症拡大防止のため中止となりました。	市内 18 校園でスクールコンサートを開催し、「児童生徒が優れた音楽に触れる機会」の提供ができました。また、市内団体が補助金を活用し、市民が参加する第九コンサートが 3 月 27 日に開催されました。 ◇参加者数：350 人
		備前長船刀剣博物館において、特別展やテーマ展を計画・実行し、刀剣文化の魅力を広めていきます。また、山鳥毛里づくりプロジェクトに基づいた取組を行います。 ※新型コロナウイルス感染症の影響あり	特別展2回、テーマ展4回を開催します。 また、国宝「山鳥毛」の展示機会を活用し、地域や民間事業者と連携した取組を行い、来館者の満足度を高めます。 目標： 入館者数 42,000人／年 来館者の満足度 67%	特別展1回、テーマ展2回を開催しました。 特別展では国宝「山鳥毛」を公開し、地域住民団体や刀剣乱舞と連携した取組を実施しました。 ◇入館者数：7,517人 開館日数：70日 ※感染症拡大防止のため、5/14～6/20、8/20～9/30臨時休館	特別展2回、テーマ展4回を開催しました。 秋季特別展では吉備津彦神社の御神宝を展示し、神社と刀剣舞のつながりなどを紹介しました。 ◇入館者数：15,118人 開館日数：158日 ※感染症拡大防止のため、5/14～6/20、8/20～9/30臨時休館	年間で特別展 2 回、テーマ展 4 回を開催しました。また、国宝「山鳥毛」をテーマにしたデジタルコンテンツや商品の開発を行いました。 ◇入館者数：17,762人 開館日数：205 日 来館者の満足度94%
		瀬戸内市立美術館の魅力向上や新たな来館者層を増やすため、魅力ある特別展や企画展を開催します。 ※新型コロナウイルス感染症の影響あり	特別展2回、企画展5回を開催します。特別展や企画展では郷土ゆかりの芸術家を顕彰するなど美術を身近に感じる取組も行います。 目標 入館者数 20,000人	特別展1回、企画展3回を開催しました。 郷土ゆかりの緑川洋一氏や隠崎隆一氏を顕彰する展覧会の開催を進めています。 ◇入館者数：5,063人 開館日数：78日 感染症拡大防止のため、5/14～6/20、8/20～9/30臨時休館	特別展2回、企画展4回を開催しました。 郷土ゆかりの緑川洋一氏や隠崎隆一氏を顕彰する展覧会を開催しました。 ◇入館者数：8,111人 開館日数：141日 空調設備他改修工事のため12/20～3/4休館	特別展 2 回、企画展 5 回を開催しました。 3 月には郷土ゆかりの芸術家の佐竹徳氏を顕彰する企画展を開催しました。 ◇入館者数：8,460人 開館日数：164 日

重点項目		内容	成果目標	9月末の進捗状況	1月末の進捗状況	3月末の達成状況
3	大型観光キャンペーンへの参画による観光客の誘客と市の知名度の向上	大型観光キャンペーンに参画することを通じて、効果的な情報発信に取り組むことで、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めつつ、国内観光客の誘客と市の知名度向上を図ります。	大型観光キャンペーンに参画することを通じて、効果的な情報発信に取り組むことで、市の知名度を高め、国内からの誘客の促進を図ります。 目標入込客数 60,000 人／月	緊急事態宣言等による移動の自粛要請等はあったものの、8月上旬から中旬にかけて大型観光キャンペーン「岡山デスティネーションキャンペーン」に参画し、国宝「山鳥毛」の特別展示に合わせた、刀剣乱舞とのコラボバスツアーを実施しました。 入込客数 (R3.9月) 47,168 人	「岡山デスティネーションキャンペーン」期間中に予定していた事業のうち緊急事態宣言等による移動の自粛要請等により実施できていなかった「刀剣に触れる鑑賞会」を、メディア関係者等を対象に10月に実施しました。 入込客数 (R3.12月) 66,223 人	令和4年度の「岡山デスティネーションキャンペーン」に向けたプロモーションの一環として3月14日に行われたせとうちDMO主催のセミナーで今年度の実績の説明をするなど、主に旅行会社に対するツアー造成の働きかけを実施しました。 入込客数 (R4.3月) 75,048 人
4	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めた観光需要の喚起	新型コロナウイルス感染症の感染状況を見極めつつ、市内の観光資源を生かした多角的な視点を持った旅行商品の開発や磨き上げを行い、新たな旅行商品の造成に取り組むことで、観光需要の喚起を図ります。	市内の観光資源を生かした多角的な視点を持った旅行商品の造成による観光需要の喚起を図ります。 新たに開発した市内の観光資源を生かした旅行商品数 2 商品	主に冬の誘客をテーマとした観光資源の掘り起こし及び磨き上げを行う企画提案を募りました。 今後事業者を決定し、テーマに沿った旅行商品の開発を行います。	冬の誘客をテーマとしたプロモーションやモニターツアーのイメージ動画の作成を実施しました。また、モニターツアーは感染症拡大防止の観点から延期となりました。	3月13日に冬をテーマにしたモニターツアーを実施しました。参加者 45 人 新たに開発した市内の観光資源を生かした旅行商品数 1 商品 既存の品をバージョンアップさせた商品数 3 商品